



遊歩道を散策！



全山 梅々梅！



女性グループの特産品と売店



「ななうめ」ちゃんもお出迎え！

しよんちゃんのお楽しみ日記② 「第二十五回七折梅まつり」の巻

砥部町の二大イベントの一つである「七折梅まつり」が今年も二月二十日から三月十日まで開催されています。毎年、日が固定されていますが早咲きの紅梅から七折小梅まで、順に咲くのでいつ行っても梅の花と香りが楽しめます。

さて、七折小梅の原木は明治中期に奈良県から購入した苗木の中に芽状変異と思われる一本の小梅がありこれが現在の七折小梅となったそうです。

砥部町は昭和四十年頃、みかんの全盛時代でみかん農家は競って家を新築していましたし七折小梅も当時はトロ箱一杯が大卒の初任給に匹敵すると言われ「青ダイヤ」と呼ばれた夢のような時代でした。

「梅まつり」は地元の人達が山一面に広がった美しい梅の花をより多くの人々に觀賞してもらおうと考え、平成三年にスタートしました。

初年度は二日間で約二万人が訪れるという予想以上の大盛況でした。今年も第二十五回の節目の梅まつりとなりますが、ここまでこのイベントを育てるには小笠原学さん、矢野征司さんをはじめ(農)ななおれ小梅組合会員の皆さんの不断の努力がありました。

観光梅園として山林を開墾、ピンクや紅梅を三千本植栽、駐車場や遊歩道の整備、女性グループは梅干しはもちろんのことシロップやドレッシング、ポン酢、クッキー等々自分達で次から次へと特産品を作ってきました。

現在、地域創世とか再生とか言われていますが「七折小梅」と言うダイヤモンドを核として集落を守り育てていく取組こそ大切なふるさと作りではないでしょうか。

梅組合の皆さんに大きな拍手を送りたいと思います。



中村剛志